第2回 第3次海上の森保全活用計画策定検討委員会 議事録

日 時：2025年3月17日（月）

午後2時00分から午後4時00分まで

場 所：あいち海上の森センター 3階研修室

出席者：委員6名、県7名

1. あいさつ

あいち海上の森センター 所長 藤野 繁春

2. 委員紹介、座長あいさつ

3. 検討事項

第3次海上の森保全活用計画の方向、方策等について

【事務局】今日は、資料1について、皆さんから前回いただきました意見に、県としてこういう風に考えてますっていうことで、お伝えできればなと思っております。

【事務局】資料1の森林整備の1番「間伐の経費に材の売り払い収入を充当できる仕組みやJークレジットなどを活用できないか」、と前回ご意見いただきました。

間伐の経費の売払い収入をそのまま海上の森で使えればいいのに、とのことだと思いますが、海上の森は県有林でして、県有林から借りて活用しているの、県財政の仕組み上、どうしても県有林収入、売払い収入をそのまま海上に限定して使うことはなかなか難しいところでもあります。この仕組みは、海上の森だけの話ではなくて、かなり大きなところであるので、そこはご理解いただきたいなと思います。

あともう1つ「Jークレジットなどを活用できないか」ですが、最近よくJークレジットっていうお金として貨幣価値みたいな形で売買されているんですけど、今回の森林吸収系のJークレジット制度の活用は、今現在、豊田市内の2カ所の県有林で、本県初めてJークレジットを創出して、480炭素トンの販売開始したところです。その484炭素トンに対して今200炭素トンの販売先が決定したところです。森林クレジットの活用は、クレジット創出にかかる費用が色々かかるんです。創出するために、この取り組み、吸収活動する取り組みだとか、それを登録したり、その取り組みをクレジット化するには、公的機関に色んな審査が必要で、それに関わる経費は当然関わっていきます。それと合わせて、その期間中、例えば「皆伐されない」とか、「他の開発に転用されない」だとか、そういったいろんな適正にその取り組みがクレジットに見合うように適正に管理してきますっていうモニタリングをずっとし続けたいといけないんですけど、その調査や報告に一定のコストが必要になります。

この森林クレジットは、今各地で取り組みが続いてるんですけど、どうしても費用がかかるっていうところがあるので、コストに見合うクレジット収入が得られるかっていう見込みがあるかどうかっていうところがすごく重要で、売れるという見込みがあればいいんですけど、見込みがないとむしろ支出の方が大きくなっていくところがあるので、そういったところで、今県有林の方でやってるJークレジットの状況を見ながら検討し、活用の可否を検討していきたいと思っております。

【座長】はい、まずそこまででいいですか。まず、1番と2番はほぼ同じ内容だと思うんですけど、今その間伐を毎年やっていますけれども、利用間伐はあるんですか。

【事務局】利用可能な範囲で利用間伐をしております。過去10年間で80m³の生産間伐を海上の森の中でしております。現行の計画の中でも、できるだけ森林資源、海上の森の資源を使っていきたいと思います計画に載っておりますので、その中で、できるだけ出せるところは

出すという形で、80 m³の生産をしています。今後も海上の森の資源、有効活用はしていきたいと思っております。

【座長】80 m³の売った収入は県有林に入っているという理解ですか。

【事務局】そうですね、県有林に入ってます。県の財産収入ですね。

【座長】間伐の費用はセンターが予算を取ってきてるという。

【事務局】そうですね、はい。

【座長】間伐の費用も県有林で見ってもらうことはできないんですか。林業ってそういうものですよね。林業ってというのは自分で経費出して儲けるわけですから。その他から予算もらってっていうのはなんかおかしいんだけど。県有林のほうでコストを負担してもらうことはできない？

【事務局】これは仕組みの話なんですけど、県有林直営で森林整備をするのであればできますが、ここはあくまでも県有林から海上の森センターが地主さんから借りてるという形で運営してるものですから、地主さんからお金もらってということができない仕組みがあるっていうことですかね。

【座長】地主さんが林業をやってもらえばいいんで。それはできないの。

【事務局】県有林の中では、ここはあくまでも県有林じゃなくて海上の森の中でやるという整理でいますので、今はできないです。

【〇〇委員】小作人には何もバックがないということですか。

【事務局】：バックはないですね。

【〇〇委員】私が思うに、それは中の仕組みだから、「県有林に入った収入をよこせ」となると会計区分が違うから難しい。けどもここを借りている小作人が木を伐って、そこを活用して売ったのであれば、小作人の収入にするのであれば問題ないと思う。

例えば、森の会がお金をもらうのはいかんのですが、センターが小作人として使うというお互いの取り決められる話だから、取り決めだけでできるのではないかな。検討してもらおう余地はあるんじゃないかと。

【事務局】販売収入となると、現金が生じると特別会計に入ります。そういった分類がどうしても、役所の縦割りじゃないんですけど、その大きな仕組みの中で難しい。仮に現物として使うのであればあるかもしれないですけど。

【〇〇委員】「生産物売り払い収入」という費目に入るんだけど、センターに「生産物売り払い収入」という費目を設けて、センターの収入として受けるか受けないだけの話なので、頭からダメだという話ではなくて・・・。

【事務局】なかなかその大きな流れの中で、県有林だけの、海上の森だけの話だけの中では収まらない。

【〇〇委員】80㎡なら、せいぜい100万だよな。

【事務局】極端な話1円でもというところではありますので。

【座長】県の仕組みを僕らは分からないんだけど、ここの間伐が進んで、しかもそれがちゃんと利用されるっていうのが大事だと思う。だから、県で予算取ってくれるっていうのであれば別にそれで文句はないんだけど。

【事務局】そのところはしっかりと予算を取って、あと、補助金だとか国の造林補助金を使って（話の途中で）。

【座長】そう。僕が言いたかったのはそれで、森林経営計画を作ってやれば国の補助金を取れるじゃないですか。それを取らずにやっているので、すごいもったいないと思うんですよ。

【事務局】そのところはいかに活用できるか色々考えながらやっていきたいと思ってます。

【座長】普通に林業やるなら、「森林経営計画を作って補助金もらってやれば」という話なので、その金をよこせとは言わないで、そういうのをしっかりやってもらえればいいかなと思いますけどね。

【〇〇委員】森林整備の4項目についてのこと、今言っているんですか。3番目に「広葉樹林の小面積皆伐」というのもあって、1、2も含めて思うのは、あっちこっちで間伐をやってるはやってるし、僕らの間伐体験にいいような、ちょっと混みすぎた所はそんなにあるわ

けではないのは事実で、まあまあ混んでるぐらいの人工林が多い。けども、詳しく丹念に歩いてるわけじゃないんだけど、「ここは今こういうステージで施業をしてるんだ」、「こういう方向でやってるんだ」っていうのが分かる、あるいは、「ここは小面積皆伐をして5年目なんだ、で、今こうなんだ、こう見てください」っていう、なんかそのメリハリがない気がするんですよ。これは例えばここが40年生でSRなんぼっていうか、森林整備の見せ方、あるいは参加の仕方もそうなんですけど、そこらについて、今の議論に合うのか合わないかわからないけれども、森林整備作業の施業の見せ方っていうのがもっとあってもいいんじゃないかな。というのは、この3番目の「小面積皆伐」。ちょうど去年の7月やって見せたんです、うちの山で。実際にどうなるかを、これから5年間見ていこうと。それでどれくらいの手がかかってきてどんなもんなのかっていうのを見届ける、あるいは見える化をするっていうことにちょっと今チャレンジしてるんですけど、そういう整理の仕方っていう。

そうすると、「ここから80m³出ます、それが売れば100万になります」とか。あるいは「何m³になりますとどうなります」とかいうのがわかるような見せ方あるいは参加の仕方みたいなものって、これまでの中にはあまりなかったような気がするんですけども。思いついて何言ってもいいって言われたので。なんかそういうのはどうなんですか。なんかね、もっと看板あって良いような気がして。

【事務局】確かに、工事などで間伐して、やっただけで、「どうなりますよ」っていう、お知らせする部分はないのかなと。一般の方が見て分かるようなものがあってもいいのかもしれないなとは思いました。

【〇〇委員】なんとかサンプル林みたいな。全部サンプル林みたいなもんじゃないですか。とかいうのが出来ていくと、歩いてても、歩く中で、歩く人は広葉樹林とかが好きで「人工林は砂漠だ」と思って歩いてる人が多いけども、歩いてみると、「そうか、これがこうなるのか」っていうことがわかる仕組みをぜひ作ってみると。それで、あそこで、「今日はここで工事してるんだと、で、この工事はこういうことなんだ」とかいうのがずっと歩いていくとわかるっていう仕組み作りを1つ、人工林についてのことを言うならば、それをぜひとも、それをどう見せるかでまた協議をすればいいし、頭をひねればいいし、知恵を出せばいいし、よその真似をすればいいしっていう風に思って。それだけは言っとこうと思って。

【座長】それはご意見をいただいたということで。小面積皆伐の3番の話はまだでしたのでお願いします。

【事務局】小面積皆伐について今の計画の中で書かれてるのが、循環の森と恵みの森の広葉樹林に対して記されていますが、実際、今のところ、その辺りでは小面積皆伐ができてなくて、まだ検討ぐらいのところしかできていませんが、ふれあいの里では、過去にシデコブシ

の自生地でシデコブシを残して小面積皆伐をした場所がありまして、そこだと広葉樹の常緑樹などを伐りましたが、年数が経ってくると、その常緑樹が萌芽してきて、また元の森林に戻りつつあるのかなという経過状態にありますので、その経過も見ながら、広葉樹林の小面積皆伐を検討、考えていきたいと思っております。

【座長】 はい。4もお願いします。

【事務局】 「恵みの森での広葉樹整備、企業連携や森林組合さんでできないか」という話がありましたが、広葉樹は針葉樹と違って枝が張っている木が多いものですから、それなりの技術を要すると。注意しながら、小さい面積であればできると思いますが、体制作り自体ができていないですから、それを検討して、そういう手を挙げていただける企業さんがいれば、できるのかなという段階です。

あと、海上の森センターで整理するって話もありますが、自分も山の中に入って見ると、過去に、元々、針広混交林を目指して針葉樹を切ったりした山があって、どちらかというともう広葉樹が勝ってるぐらい太くなって、もう広葉樹も針葉樹も、どちらも伐倒しづらい状態になってます。仮にプロの方に頼むとしても、それなりの、費用がかかってきてしまうのもありますので、〇〇委員もおっしゃってましたけど、例えばこの一区画、こういうのできないかどうかを検討する時期じゃないかなとは思っています。

【座長】 この小面積皆伐は、検討の段階で10年経っちゃった。

【〇〇委員】 小面積皆伐の話が出たが、皆伐とか間伐っていうのは、里地里山というイメージで考えた場合、私以外の人も言っていると思うんですけど、「今、里の周辺にも大きな木がずっと大きくなって、農地の方から見ると光が入らない。農地が使えなくなっている。そういう所が多いんじゃないか」ということもよく言ってるんですけど、そういうところはやっぱりその費用ということありますけれども、里の管理に必要ななら必要なようにちゃんと管理してくいうことが必要じゃないかなと思うんです。そうしていかないと、今の里を見た時に、「これが里山かよ」みたいになってしまうので。やっぱり明るさとかそういうのを求めるためにも、あの里の周辺なんかで光が当たらずに農業に問題がある所は、皆伐なり間伐を率先して進めていかないと里山というイメージが崩れてくるので、里地里山、それをウリにしてるんで、それなりの間伐なり皆伐を進めてもらってもいいと思いますので、またその辺もね、この計画の中で、やりますと書いていただければいいと思いますので。お願いします。

【座長】 今の話、農地の管理の話に入っているので、その話をやっていただいてから、また議論するので、良いですか。

【事務局】農地の管理について、まず1番目ですが、イノシシの対策の関係で、前回、「電気柵と山際のバッファゾーン、狩猟がセット」だと意見をいただきまして、「海上の森でモデル地区にしたらどうか」とご意見いただいた件ですが、ふれあいの里の農地は県有地と民有地が混在しており、今すぐこの3つをやるかというとなかなか難しいところではありますが、獣害対策はとても重要な問題ですので、所有者等とうまく調整しながら考えていきたいと思います。獣害対策は、運営協議会でも、毎回毎回問題として挙げられてますので、対策を検討していきたいとは思っております。

2つ目の、「農地の周辺の高木化した樹木を伐採して、光環境の改善が必要」という意見について、先ほど〇〇委員の発言は、まさにこれだと思いますが、今回特に言われてる部分は農地の横にある急斜面の人工林で、特にそのことが問題なのかなと思ってます。そこは以前にも検討しましたが、木の搬出が困難なため、実施には至らなかったというところがあります。実際に実施する際の方法や費用を考えながら、検討してみようと思います。

3番目の、「ため池の適切な管理、ウシガエルの除去や泥上げなど」については、農地にあるため池の管理が問題になってます。管理は、海上の森センターが主体となってやってくところではありますが、労力がかかりかかるものだと思います。ウシガエルの除去や、泥上げを実施する際には、海上の森の会やボランティアの方々の協力いただきながらやっていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【座長】はい。森林整備の3番と4番は農地の整備の1番・2番と密接に関わっているので、結局これって、その広葉樹の部分はどういうものにしていくのかっていうビジョンによると思うんですよ。ほっておけば遷移して行って、常緑樹になって、高木になっていくっていうことなので、それでいいのか、それともその落葉樹の森にするのか。落葉樹の森にしようと思っても、皆伐するだけではダメで、やっぱり除伐しないと、皆伐した後に除伐しないと落葉樹の森にならないという話ですね。だから、そういうところも含めて、落葉樹の森を一部で作っていくのか。それから、「山際は皆伐してバッファゾーンにする」というビジョンだと思います。里山の景観って言いますか、そのあり方の。そうすると田んぼにも陽が当たるといことなので、里山ランドスケープといいますけど、全体の景観をどんなふうに変えていくのかっていう、そこにかかっていると思うんですけど、現行の計画だとあまりないですね、そのビジョンが。具体的に落葉樹にするのか、ということが特にないので、結局検討してるだけで何もできていないと思う。だから、そこら辺をどういう森にしたいのかということをもう少し具体的にビジョンとして出す必要があるんじゃないかなと。それに基づいて、ここは伐採しましょうっていう話になっていくと思って。個別にここ伐採してくださいって言われて、出来ませんっていうことで、今10年経ったという。どうですかね。

【〇〇委員】はい、私、イメージしてきたんですけど、里山をイメージした時に、「どのよ

うにしたいか」というものを具体的に図化し、「斜面はここは木を伐りましょう」、「ここはこうしましょう」と、座長が言われたように文章に書いてあると、読んでもイメージが湧きにくい。里の入口から入って見た時にこういう山里にしたいと。「里はこうだよ、その奥の山はこうだよ」というのを図化して、それをイメージして山を管理してらるっていうのができると、実際何をやるべきか、というのがすごくイメージしやすいということを、ずっと考えてたんです。

本当は里山ってもっと違って、座長が絡んでる「○○○○」って○○にありますけども、山の裾まで綺麗に刈ってあって、見た時に「ここは里山だ、里だ」というイメージが多分掴める。そういう風にしていきたいと思った場合に、この計画書の中に文章で書いてあるが、それだって頭の中でイメージできるのか。イメージできないので、できれば里の入口の神社のところ、入口からぱっと見た時に、「ここはこんな風景にしたいんだ」と里山の風景を図化すればイメージしやすいかなとちょっと思ってね。座長が言われたフィールドデザイン、そういうものを今回の計画にそういうのを入れてもらおうと、「ここ刈るんだね」、「こここうするんだ」と分かりやすくなると思ってらるんです。それも含めて、農地管理、森林整備を入れてもらおうとちょっと面白いかな。

【○○委員】 すごくいいと思いました。

【○○委員】 それは今までされてないわけ？

【○○委員】 ないですね。イメージ、絵があるといいかな。

【○○委員】 展示室に立派な絵があるんですけどね。あれを模式してこんな感じと描いてもらえばね。イメージしやすいと思う。

【座長】 よくあるのは断面で低地があって山裾が両側にあって、ここにどういいう木が生えてるという模式的に断面図で表せばイメージが湧くと思います。

【○○委員】 妄想だと思って聞いてください。今、山場の課題は、巨木化・大径木化と鹿の害だと、山持さんの悩みは。それと農地との境のバッファゾーンでないですけど、「裾まで管理しないとイケないな」ということ。それも獣害に関わってくる。日当たりも。それは課題であるということ、山主さんたちは何となく分かってるんだけど、何に手をつけて、どうすればいいか分からなくて困ってる。そういう素人山主さん、素人山主難民で溢れてるのが里山の現状だと僕は思ってます。

じゃあどうするかっていうとこで、その課題を明らかにする、見える化する。今の話を逆にすると、「こっちはいい山」に、「こっちは手付けずの山にする」。こうなるといかな

からこうするんでしょっていう発想っていいのか、そういうことがやってもいいんじゃないのかな。でないと分からない。「なんでこんなことに農林に金かけるんか」と。山持の金持ちじゃないかと、そうじゃないという話がいつまで経っても分からん。半分とは言わない、「この洞はすごく良く」、けど、「こっちはほったらかし」だと、「イノシシとシカが運動会をやってるところなんだ」と、そういう対比、すなわち、ここの海上の森の1つの機能として。多くの悩める人の今、変り目になっているんですよ。もっと無関心な人たちに変わろうとしてるんですけども、その人たちの駆け込み寺にもなればいい。

あるいは、そういう人が歩いてみて「1年後はこうなるんだ」と。けど、「これだけ大きくなると、もう素人ではチェーンソー習ってももう無理だな」と。「やっぱりプロに任せよう。」じゃ、「そういう場合どうすりゃいいのかな」。入口の何が分からないか、というところからの相談窓口がサテライトの横にいつも誰かおっちゃんが出て、おっちゃんが話して、「イノシシが出たシカが出た」、「こんな太い木が倒れそうだ」、「家の軒先の樋が葉っぱでいっぱいになって困っちゃう」と。なんかそういう機能を持たして、里山暮らしの困りごとセンターがサテライトにあればいいなど。あるいはモデルでもいいです。困りごとでもありモデルでもあり。どっちも対比しないとね。綺麗なものばっかし作ってもしょうがない。ここはダメときちんと説明するっていうことをやれると、海上の森で悩めるおっちゃんに出会えるって言いたいな。言える場所が今ない。だから、そこになれば、そのモデルがモデル林・モデル田んぼ、モデル洞。とかいうような発想があった方が、より近くに感じれる。この瀬戸の周りも、おっちゃんたちは全部そう。ただ、財産価値が違うけど、うちらの方とは。けど、山としては一緒に、みんな持て余して、それをどうするか、その悩みにどう寄り添うのか。そんな、人のざわめきが少しあるような所になって、純粹に自然大好き、自然大好きだけど、自然だけのとこってないの。人の手が入っていて、どう関わり合っていけばいいのかをみんな悩んでるから、っていうところができるといいなという妄想でございます。

【座長】僕も、この東海3県、色々見てるので、ここは理想的な人工林とかね、ここはバッファゾーン作って、獣害が出ないところとか、相当相当で知ってるんですよ。だけど、みんなそこに見に行けないもんね。ここに行けば全部見れる。

【〇〇委員】私は万博のインタープリターとしてここに関わるようになって20年なんですけども、やっぱり里山というイメージでここに来て、で、ずっとそれが、「どれが里山なんだろう」と思いながらこれまで関わってきて、いろんなところを見せていただいたりとか、「海上の森ってどうなんだ」というのを考えながらいますけれども、やっぱりサテライト辺りは里山でいて欲しいなと思いますし、さっき〇〇さんがおっしゃったよろず相談室みたいなのが海上の森センターの生き残る術かもしれないなと思ったり、素晴らしい自然もあるけども、里山というものを体験したり、それを体現するために何かこう相談できる場だったりするといいのかなって思いました。

あとは、私、前回からお金の話ばかりしてるんですけど、海上の森センターにはお金がないとずっと私は思っているんで、里山をつくるためのクラウドファンディングだとか、そういうようなことを仕掛けるっていうことはできないんですかね。やっちゃダメなんですか、っていうところを知りたい。

【座長】 予算無い無いて言うからさ、じゃあみんなで稼ぎましょうよという話。

【〇〇委員】 森の会がやれば OK なんですよ。

【〇〇委員】 上物の活動内容だけの話だもんね。それならそれで出来ちゃう。

【〇〇委員】 やりますか。私の知ってるおじいちゃん・おばあちゃんたちは、いつも月1でガイドをしてるんですけども、「いくらでもお金出すよ」っていうんですよ。「トイレだって俺たちが直すから100円ずつ毎回来るわ」って言うんですけど、「じゃあやろうよ」って言っても、「なかなか」みたいな感じになるんで。誰がやればやれるんでしょうというのがすごく思う。

【事務局】 行政でクラウドファンディングを窓口でやってるってケースは多分全国にはないと思います。皆さんから税金をいただいて運営してる中なので、多分、公共、地方自治体でやってるケースはないと思います。

【〇〇委員】 行政がクラウドファンディングでなく利用団体がやるわけ。民間団体がクラウドファンするやり方にすればいい。

【〇〇委員】 民間だけでなくって、市町村はやってますよね。

【座長】 やってるよ。

【〇〇委員】 クラウドファンディングはやってやれないことはない。スピード感っていうと民間で、皆さんが「行くぜ」ってやったほうが情熱的な部分などの受け止め方がだいぶ違うと思う。

【事務局】 寄付だとかそういったものはあると思いますがね。

【〇〇委員】 ふるさと納税でもいいですよ。

【〇〇委員】ずっと聞かせてもらって、まずお金が無いという財務のことなんですけども、愛知県さんの気持ち同じ立場なので。そんな中私どもが予算確保に向けて取り組んで、一定のその解決、さっき地主さんっていう話もしたんですけど、地主さんがこれだけのことをやってらっしゃった。我々がやってるだけじゃなくて、地主さんが一緒になって、地主さんが独自でやってるみたいなの、こんなところに、財政としてそこにお金を投じない手はないだろうっていう論法でやると、小さな町としては比較的金はつきやすいです。

全部そこにくっついてる、本当に一生懸命なその汗をかいてね、皆さんのそのことを、姿が形が見えずとも言葉として発して口説き落とすことは、我々としてはできているところだと思うんですね。

そんなことがもしかしたら可能ならあるかなって、大きな組織なんで、わからないんですけど、思ったところで。害獣については、〇〇課としてもね、本当に大きな問題で特効薬もないので、本当に地主さんも苦労なさってるし、我々〇〇課も非常に苦労してて、「何が答えなんだろう」って未だにちょっとわからない。試行錯誤なのかなっていうところが感じたところと。あと、ビジョン。まさにその通りだなと思ひまして。やっぱり見えないと意味がないですもんね。文字で見たところで、うんうん言っていたところで、なんかこんな風なんで、このパーツという、この森のこの部分についてはこうあるべき、こうしたいだの。逆に、皆さんのご意見を集約する格好で何か形づくられたら、多分事務局、我々もそうなんですけど、一生懸命考えても何て言うんでしょう、その魂が足りてないというか。どうしようもないですよ、フィールドにいるのかいないのか、大きな違いなので。そういうところを感じたところですよ。

【座長】ありがとうございます。〇〇町の〇〇の森だったかな。そこも役場の所有物なんですけど、ボランティアさんのグループが入ってやってるんですけど、みんな思っていることはバラバラで、コミュニケーションすらできない状態になったので、なんとかして欲しいと言われて、それはもう話し合うしかないですねって話し合ったんですけど、その話し合った目標は、その共通のビジョンを作りましょうっていうことで、最終的にその断面図を作ったんです。

現状の断面図は、昔からこうだったね、現状はこうだったね、じゃあ未来こうしましょう、って断面図を合意したんですよ。

で、なのでそんな、みんなで話し合いながら、このビジョンを作っていくっていうのは、ぜひやったらいいんじゃないかなと思いますね。だから、それがもう計画として描いてなくてよくて、「次期計画の中でそれをみんなで考えてしまう」ということができればいいのではないかな。今、一応ゾーン分けしてるじゃないですか。それよりも少し細かい、この洞をどうする、などのデザイン。

【〇〇委員】かわいいイラストが欲しいです。一般の人が見てこれが里山っていうのが分か

のようなものがそこに広がってたら、「わー」となるんじゃないですか。なんかこういう風になったら、その昔話出てくるような、里山、なんか昔の風景を見ると、多分日本人は「あー」となると思うんです。

【座長】そこが景観だけじゃなくて、おっしゃられたように文化、暮らしの文化とかね、伝統行事とかお祭りとかね、そういうのも入っているという。「景観」っていうのはそこまで入っている概念なんですよね、「ランドスケープ」っていう概念。単に見た目っていう意味じゃなくて、そこに暮らしている人の暮らしだとか、一見目に見えないんだけどそういうものを含めた景観というので、なんかそういうデザインをすることをやったらいんじゃないですかね。

はい。ため池は結構あるんですか。要は大正池とかの話。

【事務局】いえ、違いますね。

【座長】あれは砂防ダムね。それ以外のため池は里にあるってということですか。

【〇〇委員】弘法堂っていう建物が道の横にあって、あそこをずっと奥に入ったところにため池があって、CPO10のときに作り直したため池が残っているんですけど、それが老朽化していて。

【座長】1つだけですか。今あるのは。

【〇〇委員】1つだけだよね。前は2、3あるようなことを言われていたんですけど、今は1つですよ。小さいですよ。

【座長】それは今機能しているんですか。ため池として。

【〇〇委員】機能はほとんどしていません。

【座長】あ、していないんですね。

【〇〇委員】下流側で水稻、お米作っていたんで、その時に使うようになっていたんですけど、今はお米やめちゃったんで。ここ数年間は泥かきもやっていないので、「1回整備してほしい」という方もおられますね。

【座長】海上の森の会の田んぼには使わないんですか、その水は。

【〇〇委員】海上の森の会はほとんど使っていないです。今はそちらのほうでは田んぼは使っていないくて。

【座長】使っていないとなると、あまり手間をかけるのもなんだなって感じですけどね。

【〇〇委員】その当時作った方は必死にやって思い入れがあるものですから。

【座長】そりゃそうなんですけれど、何か使うあてがあればいいですけどね。

【〇〇委員】使う農地が日陰化しているので、使いにくい状態なので。

【座長】そういう悪循環なのですね。

【〇〇委員】それからもう1つは予算的な話があって、「なかなか県のほうでは面倒見切れない」という話もあるもんですからどうかな、というところはありますけどね。

【座長】ため池は県の所有なのですか。

【事務局】そうですね、県で工事して作ったものになります。

【座長】なるほど。

【事務局】実際にこれまでやられていたのは、県が管理はしているんですけど、ため池グループの人たちがご意見していただいてやっているというところです。それが高齢化してきて皆さんもうやれないということで、「もうちょっと県が主体的にやってください」ということでお話している状態です。

【座長】なるほど。イベントとしてやれば楽しいし人も集まるけれどね。「何のためにやるか」というのもありますよね。まあ外来種いっぱいいるから。

【〇〇委員】アカミミガメはいっぱいいますね。

【〇〇委員】イシガメがいたんですけど、去年からいなくなってしまって、たぶんウシガエルに食べられたんじゃないかなと。

【座長】とにかくウシガエルがいるわけね。それはどうにかしなきゃいかん、ということですね。

【〇〇委員】イシガメが卵を産んだんですけど、ため池のまわりに。だけどそれも孵ったかどうかわからない。

【座長】なるほど。生物多様性という観点ではちょっとやったほうがいいかもしれないですね。

【〇〇委員】大きさは、この部屋の半分くらいですね。

【座長】ああ、そんなもんなのですね。じゃあちょっとそれは誰かが「やろう」と言い出せば1日でできちゃうかな。

【〇〇委員】たぶん今回は県が「やろう」って言われるだろうと。海上の森の会で皆さんが協力してやってたんですが、この前も11月にやるという話をしていたのですが急遽中止してまた今度、という話に。

【座長】じゃあこれはぜひやりましょう。はい、ありがとうございます。
じゃあ、他の部分の説明をお願いします。

【事務局】「自然環境の保全」ということで、まず1つ目に今のお話に関連しますけれど「外来種が増えている」ということが1つ挙げられておまして、私も調査担当になって5年目くらいになるんですけど、その中でも「前はこんなのいなかったのに」と思うやつが出てきたりしていることがちょいちょいありまして、昆虫で言ったらアカボシゴマダラですとかチュウゴクアミガサハゴロモとか、鳥でいえばガビチョウが出てきたりですとか、そういったことが少なくともここ数年で出てきているということがありますし、森の会さんが生物季節調査を実施していただいておりますが、その中でも「外来種がいたよ」というお話もいただいておりますので、我々としても痛感している部分であります。来年度に委託調査の項目としまして外来種とホトケドジョウの調査を予定しています。その調査結果もふまえて「今後どうしていくか」ということを考えていきたいと思っておりますけれども、外来種の調査自体が10年周期で実施しているものでして、前回は平成27年でして、その時は私の記憶では「外来種でこういうのがいました」という展示はやらせてもらったのですが、「じゃあそれをどうするか」といったところまでは踏み込めていなかったように思いますので、そういったところも含めて、調査結果をふまえて検討していけたらなと思っております。

【事務局】続きまして、「ギフチョウへの対策は検討するのか」というところで、〇〇委員からのご質問ですけど、ギフチョウの対策の関係は自然環境課が以前やられていたものですから、今日は来られなかったのですが自然環境課のほうに聞き取りしてきました。ギフチョウは昨年も「ギフチョウ飛んでいたよ」ということで〇〇委員から情報いただいたのでゼロではないのかなと思うのですが、まとまって増えているような状況ではないという状況が続いております。ギフチョウを増やそうとするとカンアオイを育てないといけないということで、カンアオイを育てるには照度の高い林にしなければいけないということで、小面積皆伐とかも考えなきゃいけないんじゃないか、ということで、それをするには「小面積皆伐が環境にどれくらい影響があるのか」等その辺りを調べてから検討したい、というような意見でした。小面積皆伐も自然環境課が持っている保護区だけでなく他のエリ

アもあるかもしれないので、うちで小面積皆伐したシデコブシのところだとかそういうところもあるかもしれないので、そういうところとかも影響とかをみながら検討していこうと考えております。

【事務局】3つ目の「動植物の窃盗・盗掘等」のお話なのですが、基本的にやっていることとしましては職員による見回りですとか看板設置といったことになってしまうのですが、1つの例としまして挙げますと、今年・去年と〇〇〇〇の営巣に伴って「密猟しに来ているんじゃないか」という不審者が確認されたりしているということがありまして、その対策を重点的にやっています。実際にやっていることは、監視カメラ（自動撮影カメラ）を道際とか侵入箇所になっているところに複数台設置しまして、規制線ですとか有刺鉄線なんかを張り巡らせて侵入がしにくいような形をとったりしています。他にも「希少植物が盗掘された」ですとか、今年でいうと「オオルリの巣が」という話もありましたけれども、そういった部分も見回り等はさせてもらっているのですが、ちょっとまだ手が付けられていない部分もあつたりしますので、そういったところも懸案事項も考えつつ、予算や人員も考えつつやっていけたらなと思っているところでございます。

【座長】はい、ありがとうございます。

【〇〇委員】いつもセンターの方が見回り等をしてくださっているのはすごく分かります、ありがとうございます。私たちが週1回見回ることもあるし、観察会の中で「自分も盗掘の予防というかそういうのは何かできないかな」といつも思っていて、去年とかも腕章とかをつけて「私たち見えていますよ」というようなアピールをして、貴重な花とかがあるところを歩く時にアピール出来たら、「人の目がある」ということが予防になるんじゃないかと思つてご提案したいんですけど。いつも観察している人、見ている人がいるっていうことをアピールして歩くっていうのはお金もかからないしいんじゃないかと思つて。2番の「ギフチョウの対策」で、カンアオイも実際に盗まれているんじゃないかなと勘繰れば勘繰れるというか、「一昨年までいっぱいあったのになんで突然なくなっちゃったんだろう」と。もしかすると人じゃなくて動物かもしれないけれども、人の可能性もある。なのでお金もかからない方法で何か協力できたらいいなと思つています。

【〇〇委員】私も同じで、腕章を配る人を何人かなのかどういふグループなのかかわからないですけど、「海上の森センターから来ました、周期的に見回りしています」というような腕章をつけてそれぞればらばらで歩いていたら全然違うかなというふうに思いました。私の連れて歩いている人たちもこの間「シュンランがなくなった」と言っていて。ササユリはいつもなくなるし。植物は普通の人採っているんじゃないかなと私は思っていて。「ちょっといいでしょ」という感じで。植物の人はたぶんあんまり考えずに採っていらっしゃるのかなという感じがするので、そうやって腕章をつける人を、募集をすると逆に怪しい

人がつける可能性もあるので、信頼のおける人に「任命する」みたいな形で。もちろん海上の森の会の調査グループの方々は毎週行っていらっしゃいますし、私たちも特定のメンバーで歩いていますので。それだけでも週に何回かできるので違うのかなと。そういうことをここで話す場ではないのかもしれないですけど、とても簡単なのでそれはしたほうがいいのかな、というのと、もう1つはカンアオイって無茶苦茶減っていますよね。全然ないんですよね。あったところはないですし、本当に海上の森って乾いていてカンアオイがたくさんあるイメージでいたんですけど、最近本当はないので、よく考えなくちゃいけないのかなと。やっぱりギフチョウを増やすのにカンアオイがないとどうしようもないと思うので。

【座長】カンアオイを持っていく人がいるんですか。

【〇〇委員、〇〇委員】いると思います。

【〇〇委員】ヒメカンアオイもあったのに、ヒメカンアオイもなくなっちゃっているし。

【〇〇委員】すごいでっかい株があったのに、ないんですよ。

【座長】花を楽しむ？

【〇〇委員】昭和の初期か何かに、カンアオイの花を愛でるっていうのがあったらしいです。

【座長】そうなんですか。

【〇〇委員】渋い。

【座長】そうですか、じゃあ人間が一番問題ですね。

【〇〇委員】はじめはシカか何かが好んで食べるのかなと思ったんですけど、そういう感じでもないですし。

【〇〇委員】よくゴミを捨てられるところなんか「見てますよ」っていう目のマークみたいなやつを貼っておくっていうのはちょっと無粋なのであまりよくないのかなと思いますけれど、そうやって人が、センターの方だけじゃなくて「色んな人がパトロールしています」みたいな、そういうのはやっぱり。

【座長】うん、いいんじゃないですかね。

【〇〇委員】森に入る入口が、センターからと森の入口駐車場から入っていくのが普通ですよ。あそこはやっぱり看板を見て入る人ってあまりいなくて、自然環境保全地域とかを知らずに入って、その辺の田んぼとか雑木林と同じようにボキボキ折って採集して帰る人と

かもいるから。虫とかチョウチョとかも採っていっちゃう。

【〇〇委員】要するに、悪意をもって最初から来る人のことは考えてもキリがない話で、「採っていてもいいのかな」と思って勝手に採っていく人がいっぱいいるとなくなっちゃう。「あの人も採っているから私も採っちゃう」と。そっちのほうの注意喚起ですよ、善意に基づく。そっちのほうをしっかりとやるしかないのかな。怖い人のことは考えない。

【座長】まあそういうのは警察ですよ。警察に任せれば。

【〇〇委員】だいたいこういうのは「いつ頃入っているのか」というのはわかるんですか。

【〇〇委員】霧の日とか、あります。

【〇〇委員】おっしゃられたように警察とか動いていただけるなら警察に頑張ってもらって、1人捕まえてもらって、大々的に示せばいいような気がしますけれどね。そんなことができるかどうかはわからずにしゃべっておりますけれども、もし「何曜日のいつ」とか、わかるのなら、ちょっと1回でも2回でも近くを見回る手はないのかなと。それからゴミの話が出ましたけれども、ゴミの不法投棄は神社なんかやっているような「神様が見ているぞ」みたいなものがあると、何となく人間「やっちゃいけない」というふうになったり、何かしらやれることはあるのかなと思いました。

【座長】何かかわいい看板を作るとか。

【〇〇委員】かわいい看板にしますか。

【座長】じゃあここはセンターだけでやるんじゃなくて、できるだけみんなの力でやっていくということで。腕章っていうのはとてもいいアイデアだと思うし、前からずっと言われていると思いますけれど、ぜひご検討いただいて。注意喚起についても何かキャンペーンやったらいいですよ、期間決めてね。その時だけは看板をばーっと立てて、ちょっとカッコ悪くても。そういうのもあってもいいんじゃないかなと。

【〇〇委員】看板のなかでも例えば、センターだけじゃなくて瀬戸警察署とかの名前を借りるとか、それがあるといいね。

【座長】そうですね。警察署の名前が入っていればね、違いますよね。

【〇〇委員】もしそういう努力ができるならね、入れさせてもらえればいいのかと。ちょっとレベルがあがるかなと。

【座長】はい、よろしいでしょうか。ギフチョウは何年か前にだいぶやったんですけどギ

フチョウが出てこなかったというので、かなりの面積を明るくしないと効果がないので、やっぱりこの小面積皆伐とか山際の皆伐とか、そういう話とセットでやらないとたぶん効果が上がらないと思うのでね。それとセットでさっき言ったビジョンの中で「ここはギフチョウを呼び込もう」というのを作るということだと思っているので、という観点で少し検討していただけますか。

【〇〇委員】昔はセンターとかにもいましたもんね。遊歩施設にいました。

【座長】そうなんですね。カンアオイを採っていつっちゃう人がいるのは困るね。はい、ありがとうございます。では、他のところをお願いします。

【事務局】第1回でご意見いただいた「海上の森アカデミーはワーキンググループを作っで見直しを検討する」ということで、来年度でアカデミーが10年目になります。節目の年になります。この10年間の成果や課題を見直したり、修了生の方にアンケートをとりまして、そういった意見を取りまとめて次期アカデミーの内容を計画し検討していきたいと考えているのですが、それに伴い有識者の方のご意見をいただけたらなと考えておりますので、この場にそれぞれのコースの担当を務めていただいている方々がいらっしゃいますので、またご相談させていただけたらなと思っております。よろしく願いいたします。

【座長】はい。里山暮らし講座のほうはこの前ちょっと言いましたけれど、あれ結局アートの講座なので、むしろ「里山アート講座」にして、それはそれで場合によってはグリーンウッドワークとセットにして「里山のアート講座」みたいなのがいいのかなと。それとは別に本当の「里山暮らし」の講座をやったらいんじゃないかなと。参加者からも「里山暮らし講座ということで来たけれど、里山暮らしについてはよくわかりませんでした」という反応があったので。やっぱり里山暮らしというと、田んぼがあり山があり、落ち葉集めてたい肥作ったりとかね、そんなイメージなので、それはそれでしっかりやってもらいたいなというふうに思うので、「森女の森」があるように「里山講座の里山」があって、そこを今の荒れた状態からだんだん復活させていくみたいな講座ができるとすごくいいなと。アズマヤプロジェクトも、里山に小屋はつきものなので、アズマヤプロジェクトと上手に連携するか何かして、そういう講座ができるといいなと思っております。またぜひワークショップとかをやってみみんなで考える機会を作っていただければと思いますが、森女はいかがですか、10年やってきて。

【〇〇委員】10年で約90人くらいかな。プロになるのは1割以上になったんじゃないですかね。

【〇〇委員】すごい。

【〇〇委員】プロになっちゃって困ったなというね。ちょっと体育会系に走りすぎたかなと。もっと自由な森づくり、っていう方向に向かえばいいのかなということで今、森女たちに働きかけて、知恵をくれ、妄想を語れ、ということをやっていたほうがいいなと。チェーンソーを扱えるということのインパクトが大きい。実際にこんな太い木を倒すことの自信というのが大きいんですけど、それだけじゃない。〇〇先生のおっしゃる「里山暮らし」の部分と一緒に感じて抱えています。もっと自由な山との付き合い方、もっと言うなれば彼女らは体現しているわけです。「マウスよりも重いものを持ったことがない」というような子はいないですけど、そんな子がチェーンソーを初めて持ってバリバリ倒して山から引きずり出して、デザインもある程度できるということになったんだよ、ということが大きいのであって、それは先ほど言った「素人山主相談室」じゃないけれども、ここへ来たときに「ちょっと習えばある程度のことはできます。そのかわり太いのは危ないですよ。こういう樹木は怖いですよ。」というような危険のことも含めてきちんと教えられます。モデルはそこかしこにいますよ。そういう部分でできていく「かわり時」に森女の女子大的な、女子ばかりというのはそれはそれでいいなと。塊としてはちょうどよくて、テーマはもう少し自由にできるようなことの知恵を出しあいましょうという形で今動いています。去年の年末には合宿をやって、9期のうち20人弱が集まって泊まって飲んで、というのができるくらいになれたので。もっとここに参加できる形、ここの地域づくりというか、ここでの里山づくりに気楽に関われるというのが中核の1つになればいいなと思いますね。もっと自由でいいという気が僕はします。

【座長】はい。〇〇さんいかがですか。

【〇〇委員】私は「自然教育コース」ということで10年間やらせていただきましたけれども、大変迷走しているコースでして、最初は「森のようちえんをやりたい人」への講座をやり、その次に「森で色んな子供たちと遊ぶインタープリターのよう人たち」を養成する講座をやったり、今年度からは企業の方たちがどうやってこの森に関わっていくのかという「ネイチャーポジティブ」ですとか、そういったことに興味がある方に関わっていただきたいと思って開催しているのですけれども、この森以外にも色々な森を使って森のようちえんをやる方も出てきましたし、インタープリターのほうは「グループで海上の森を使ってイベントをやりましょう」ということで何年かやっていたのですけれども、だんだんと、私が「自然のなんでも屋」なので、〇〇先生や〇〇先生のように「こういう人たちを輩出しました」というようなのがなくて非常に恐縮で「私でいいのかしら」とも思うのですけれども。ただ「時代の要請とともに変わっていく」ということも大事なのかなと思って、1人でもたくさんの方に海上の森に関心を持っていただきたい、関わっていただきたいというのを目標にしてこれからもいきたいなと思っています。企業の方はすごく力があるので、そういう方々が「自分の会社に有益じゃないか」ということで関わっていただけているのはすごくいいことじゃないかなと思っております。自然教育コースとはまた別で、私が個人的にやって

いる団体のほうではやっぱり里山暮らしのことをやっているんですよね。省略すると海上の森ってやっぱり里山なのかなと。里山にどういうふうに関わっていくのかなと。どうやって里山を実現していくのかなと。そういうところだと思うので、1本の筋をずっと通していくというのは大事なことなのかなと。今回の会議も参加させていただいて、そのようなことをすごく思います。

【座長】今年企業の人を集めてやっているんですか。

【〇〇委員】今年度は企業の方もそうですし、一般の方もどうぞという感じをお願いしたのですけれども、企業の方が半数以上いらっちゃって、やはり「自然共生サイト」の認定を自分たちが持っている森だとか活動している森でどういうふうに見えるか、ということにすごく今関心があるみたいで、今回法制化するんですけれども、認定だけではなくて海上の森でやるからには実技でやっていただいたりだとか、「ただ丸投げじゃなくて自分たちで汗かきなよ」という感じでやってもらうという講座にしたかったので、来年度もそういった感じで見るといいかなというふう考えております。

【座長】それは素晴らしい。僕もいくつか企業の相談に乗っていますけれども、担当者に「ここへ来て勉強しろ」と言えればそれでいいですね。

はい、じゃあいいですか、アカデミーはそんなところで。またぜひワーキンググループも作っていただいて、それで僕らも参加させてもらってやりたいと思います。ぜひあの修了生へのアンケートをお願いしたいなと。「これを受けたことがその後の生活、人生にどう影響があったか」というのをぜひお願いしたいなと。

では、他には。「地域」を。

【事務局】はい、では続きまして地域の関係で2つご意見いただきました。1つ目が「住民が住んでいなくても里文化や自然が守られるモデル地区となることを期待します」ということですが、里文化についてうちのほうからあんまり情報発信とかもしていないという状況でして、サテライトで行われている「おこずな撒き」というのも出していないことがあるので、そういうのも情報発信として出してもいいのかなと。積極的にそういうのも出していければなと感じております。あと「海上の森を維持するためにも地元住民の参加をどう促すか」ということが課題だ、ということでもなかなか地元の方々が今参加していただけないということでご意見いただいたのですけれども、うちのほうもなかなか難しいなというがあるので、どういうイベントとかをすればいいのかなというのを皆さんからご意見みたいなのがあればいただければなと思っています。

【座長】瀬戸市民の皆さんに「ここはうちの森だ」と思ってもらえるといいかなと。

【〇〇委員】半田川だと一番わかりやすいのは、オオサンショウオがいるために住民さんが

一緒になって守ろうと。で、そこにくっついてくる企業さんだとか団体さんだとか、もちろん役所もそうなんですけれど、一枚岩になれるように。何か1つだけでいいので、何かあるといいですね、ここで。本当にわかりやすいのがオオサンショウオで、あれがなければたぶん何もできていなくて、保護していく、保全していくということで一枚岩になってやれているので、今言われたとおりだと思います。

【座長】そういう意味では色々あるけれどね。湿地のハッチョウトンボとか、シデコブシもそうだし、色々ネタはあると思いますね。

【〇〇委員】オオサンショウオはいいですよ。ちょっとホトケドジョウは弱いですよ。

【座長】ホトケドジョウはなかなか、マニアックな感じですね。あとはその、この里の文化は結構調べられているんですよ。

【〇〇委員】一応、森の会のほうでは「文化」ということでやっているんですけども、色々制約がある。スペースの問題だとか。あとは一般の方を入れていないんですよ。私的には一般の人を入れたいんですけど、例えばものを食べるとなると保健所の問題とか色々問題が出てくるものですから一長一短だなと思っておるんですけども、この地域にある昔からやっている行事なんかについてはなるべく一般の人を招く機会、招くのであれば定数を決めてというようなことで招いていけばいいかなということで。過去はやってたんですけど、コロナ禍以降はちょっとそれが縮小になっているので、もう少し門戸を広げていきたいなということはちょっと考えております。かなり特色のあるところがあって、私は三河なんですけれど、こことちょっと違うところがあっておもしろいなと自分では思っておるんですけども、そういうのを少しでも、季節季節の文化とか伝承とかをやっている行事があるものですから、そういうのも少しやっていきたいのですが。ただし、地元の方が誰も住んでいない。山口地区が地元なんですけれど、山口地区もほとんどよそから来た人ばかりなので、一部の人の力を借りてやるような形。それを受け継いでもらえる人をやっぱり養成していかないといけないのかなと。自分としては反省点なんですけれど。一般の募集と、先輩がいなくてもできるような体制づくり、それをやっていかないと伝わっていかないと。書物には書いてあるんですけど、なかなかそれが伝わっていかない。それからもう1つはその「いわれ」とか、この地域の特色というのを子供たちに説明する、そういうことをやれば多少は残るので、そういうことをやってはきているんですけど、なかなかその話すタイミングがうまくとれないとすーっと帰っちゃうので、そのへんがちょっと問題があるので、やり方をちょっと考えていけば、守ることはできると思っていますけれど。なんとか守っていきたいっていうのがあります。

【座長】それも「里山暮らし講座」の中でね、連携して、そういうお祭りやってみるとか、そんなことができるといいかなと。ここはある意味「集落消滅」のモデルなんです。これ

からあちこちでこうなるんですよ。集落がどんどん消滅していくんで、その時にもちろんほとんどなくなっちゃうんだけど、一部でも何か通ってくる人が受け継いでいくっていうのがあり得るんですよ。

【〇〇委員】 そう思います。

【座長】 なのでそういうモデルだと思います。日本中の最先端だと。日本の最先端、世界の最先端。

【〇〇委員】 消滅集落の候補を残すために「関係人口」という言い方をしているんだから、「海上の森集落」という仮想でもいいから、実際名前ありますよねあそこの集落って。サテライトのへんが 1 つの集落だったでしょ。そこが消えたわけですよ。そういうところの住民登録じゃないけれども、そういう関係人口みたいなのを作って。「海上の森クラウドファンディング」みたいなじゃないんだけど、それでこう海上の森を作っていくよという流れ、住民票を与えればいいよね。

【〇〇委員】 住民登録にすればいいんだ。

【〇〇委員】 瀬戸市もきてるし。消滅集落を関係人口でどうにかしていこうと思っているわけで、そのモデルというならばまさに「今から買っとけ」じゃないけれども「今から住民になっとけ」っていうのもいいし、

【〇〇委員】 今年はチャンスですよ、20 周年で。

【〇〇委員】 応援団とかもね。「里山復活応援団」みたいなのを。

【〇〇委員】 住民票を発行するんですよ。

【〇〇委員】 仮想なんだけど。

【座長】 新潟県の小千谷市がそういうのをやっていて、仮想通過で税金を集めるんですよ。

【〇〇委員】 そこは瀬戸市がちゃんと。

【〇〇委員】 法律上ではあるんですけどね。おもしろいですね。

【〇〇委員】 モリゾーとキッコロは瀬戸市の住民ですか。

【〇〇委員】 そうですね。

【〇〇委員】 ですよ、確か。海上の森に住んでいる。

【座長】 じゃあそれだ。

【〇〇委員】 今年限りですよ、立ち上げるとしたら。

【〇〇委員】 モリゾーとキッコロだけじゃなくてもいいけどね。オオタカと、ハッチョウトンボと。

【〇〇委員】 ヒメタイコウチでいいんじゃないですか。

【〇〇委員】 ヒメタイコウチか。それくらいならいいかもしれないね。

【〇〇委員】 やっぱり田んぼとかを増やしたいですよ。

【〇〇委員】 だからそれはもう、「THE 鉄腕 DASH」みたいな形での作り方はこれからはあり得ると思うんですよ。そうするとさっきの話で森女は森女の森を見てアズマヤ計画をもっていく形ができたように、これから人材育成でその核となるものを作っていければ。

【〇〇委員】 あちこちに来てもらわないと。

【〇〇委員】 村だわね、海上村。

【〇〇委員】 災害が起こったら海上村に来よう、って言ってるんですよ。みんなで火焚いて、暮らしていこうと。ライバルが増えるなあ。

【〇〇委員】 そのもとは、「消滅集落のモデルを作るんだ」という、明るい希望のモデルを作るんだ、という位置づけ。だからただのあれじゃなくて、瀬戸市ものりやすい。

【〇〇委員】 お願いします。

【〇〇委員】 なんか愛知県がシンボルになるといいですね。

【座長】 はい、じゃあ次行きましょう。

【事務局】 施設のほうですけど、「施設が老朽化している、トイレは利用者負担を」ということなんですけれど、この施設が開所から 20 年くらい経って、公共施設としては 20 年ってそんなに古くないなかで結構老朽化があるんですよ。ウッドデッキも順次、張り替えたりしています。メンテナンスは頻度は上げながら改修していくしかないというのと、業者に無理がないようにメンテナンスを増やして修繕とかして維持管理をしていきたいと思っています。「トイレは利用者負担をしてはどうか」というところなんですけれど、エコトイレの入口駐車場だとかサテライトもですが、当時は先端の技術を使ってかなりのお金かけて作ったところではあるんですけど、20 年経って見たなかで、色々だいぶ不具合が出て

くるとは思うのですが、それをなかなか利用者の負担で作り変えるのは難しいかなと思いつつ、とはいえまだ使える施設なのでこれをなんとか活かしてやっていかなきゃいかんかなと思っておりますので、作り変えていうのはなかなか難しいところではありますけれど、維持修繕は、っていうことですね。利用者の負担は今のところちょっと考えていないです。

【〇〇委員】 どうして利用者負担は考えないんですか。新設ではなくって、管理に利用者負担をしていただくというのもない、ということですか。

【事務局】 そこは県で予算をとってやっていくと思っておりますので。維持管理については、利用者負担を求めずに、県が管理していくことでやっていく。

【〇〇委員】 それはなぜなんですか。

【〇〇委員】 県の施設ではやっていないですね。

【〇〇委員】 そうなんですか。

【〇〇委員】 それをやり始めるとなると難しい。

【事務局】 あくまで県の施設ですので、県が管理していくということで。当然利用者に不便があるような施設を提供し続けるのはサービスの低下になるので、しっかり直していきます。

【〇〇委員】 今のトイレの話ですけど、1年半から2年くらい前に壊れて、男性はいいんですけど女性なんかを使う場合に、いつもバケツ持ってトイレに行っている。

【〇〇委員】 そう！

【〇〇委員】 ほんとそうなんです。

【〇〇委員】 そんなのあり得ないでしょう。「修繕、修繕」と1年間言われているんだけど、使えないものは「使えない」とやっぱりはっきりしないと、あそこ結構利用者が多いもんで、で、100人くらいが限界なんですよ。一応100人までは水が流せますよ、と書いてあるんです。限界に達しているし、トイレ行く度にバケツ持って・・・こんなトイレはない。と私は思うんで、どこかで割り切って新設で手を挙げないと、2年経っても3年経っても同じことの繰り返し。この1年間でかなり改善された面があればいいけれども、全然改善されていないもんだから、「やっぱり諦めなきゃいかんのじゃないのか」というふうに私は思うのですが、でも。女性の人に聞いてみると「すごく汚い」という。汚れている。使う人が多いもんだから。それで「使うにも使いにくい」という話をよく聞くんです。だからそん

な状態で果たしていいのか、っていう話をいつまでも、1回やっぱり実態を見てこないといかんと思うし、私はそう感じるし、女性はつくづく感じていると思う。

【〇〇委員】ほとんど和式なんですよ。今和式のトイレって小学校にもないですよ。洋式は真ん中の多目的のやつが1台あるだけで、あと3つあっても和式で、しかも自分で水流すっていう状況で、来られているのは妙齢の女性ばかりで、だれもそこは使わないです。真ん中のトイレだけを使って、流れなくなってもた水を足して、という状況なんですけど、それでもまだ使うっていう・・・

【〇〇委員】私なんかはもう慣れたからいいけど、初めて来る人が用を足して自分で井戸まで行って、1人だと井戸汲めないのでも2人でやって、「すみません、誰か持ってくれませんか」みたいな感じでやって漕いで、バケツ持ってまた置きに行くっていうのは恥ずかしい人は恥ずかしい。

【〇〇委員】ですよ。私初めて来たなら「もう来ないわ」って思います。

【〇〇委員】確かに。

【〇〇委員】1年や2年経ってもほとんど変わっていない。

【〇〇委員】そんなところ、ないですよ。

【〇〇委員】1回、局長でも部長でも来てもらって、「どうですか」と。それから知事は来ないと思うけれど、そういう実態を見てどう思うかって考えた場合に、今までここからクレームなんかが出ていないからそんなに感じられていないと思うけれど、訴えるところはここしかないからね。それはやっぱり不自然じゃないかなと、トイレ自体がね。だからなんとかして改善してあげてほしい。

【〇〇委員】お客さんに「来るな」と言ってるわけだね、要するに。

【〇〇委員】そうですね。

【〇〇委員】それはやっぱりまずいんじゃないか。したかったら家まで我慢せい、ということですね。

【〇〇委員】和式って、お子さんはやっぱりもう知らないじゃないですか。今なんか〇〇緑地だと、和式の上に載せるやつ、全部替えなくてもああいうやつもあるんだなと。

【〇〇委員】〇〇緑地すごい綺麗なトイレもありますよね。50年経つとそうなるんですよ、きっと。

【座長】はい、じゃあこちらは委員としては認められないということで、再考をお願いしたいと思います。

【座長】はい、では「運営・その他」について。

【事務局】運営・その他についてですけど、「森林管理や普及啓発ができる人材の職員配置が必要」ということですけど、こちらについては適切に施設管理を運営できるような人員配置に努めていきます、ということです。

【〇〇委員】2025年度を楽しみにしております。

【事務局】はい。

【事務局】続いて、「来場者のニーズを把握するよう、次期計画で調査を検討する」ということでご意見いただいたのですけれども、海上の森に入られている方々がどこを回られているとか、どういう目的で来られているかというのを、あまり把握できていないところかなと思いますので、アンケート調査を今もやっているのですけれどもなかなか動向をつかめていないところがあるので、積極的にやっていきたいなと思っております。

【座長】これは色んなやり方があるので、また相談していただければ。やりましょう、これはね。

【事務局】続いて、「その他」のところ、瀬戸市道の補修の関係なのですけれども、市道の関係で瀬戸市さんにも要望はしておりまして、最低限のところではやっていただいているところではあります。今後直して欲しいところは瀬戸市さんに要望していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【座長】道は県じゃないんですね。

【事務局】そうなんです、サテライトのほうまで行く道は瀬戸市道になっていますので。

【座長】土地は県だけど、道は市なんですね。道を県道にするわけにはいかないですもんね。じゃあこれはぜひお願いします。

【〇〇委員】トイレの問題は大きいよ。だから固定化するんだよ、来る人が。誰かを連れて来ようという気持ちになれない。

【〇〇委員】でもそのトイレでも10年通っていらっしゃる方もいるんですよ。それを凌駕するくらいに魅力もあるってということなんです。

【〇〇委員】「山に来たのにトイレがあるなんてありがたいな」というような人ですね。

【〇〇委員】そりゃそうだけども。彼女を連れては来れんわね。がんばりましょう。

【座長】はい、じゃあ資料 1 はこんなところでいいでしょうか。今日はこんなところでいいんですよね。

【事務局】この回答以外のところでも「次の計画にこういうのを載せたらどうなのかな」というような意見がもしございましたら、次の会議のときには骨子のほうを皆さんに検討していただきたいなと思いますので。

【座長】なのでそのときにこの資料 1 の話がどこに入っているのかが、色を変えたりしてわかるようにしておいていただけるといいかなと思います。

はい、じゃあ私のほうはこれで終わりです、ありがとうございました。

【事務局】はい、ありがとうございます。時間になりましたので、本日はこれで終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。次回は 7 月頃を予定しております。今日いただきましたご意見等をまとめて骨子の案とかをお示しできればと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。